欅を、君に。(1)

（高校一年生の倉本歩が所属する陸上部は、全国高校駅伝の前哨戦である九州瀬戸内駅伝のメンバー選考を行っています。歩は、一年生の高田稔、三年生の河合穂波と並ぶ形でラストスパートをかけました。）

向かい風に阻まれて、思うように進めない。体重の軽い稔も風の影響を受けて苦しそうだ。

そして、三人の中で一番大柄な河合さんが抜け出そうとした。追おうとした時に、横風が吹いた。

「あ！」と思わず声を出してしまった。

風でバランスを崩した歩は、内側によれ、河合さんにぶつかった。その拍子に、河合さんが転びそうになる。だが、すぐに立て直して走り出す。

ようやく歩がバランスを取り戻した時には、後ろを走っていた選手に抜かれていた。必死で追いすがる。四、五人で団子状になってゴールラインを通過した。①歩は遠ざかる河合さんの背中ばかり見ながら走っていた。追いつくことはできなかった。

「倉本、十分三十五秒」

そのまま倒れ込みたかったが、後ろを走ってくる人がいたから、暫く走った後で止まる。腰を折って呼吸を整えていると、汗がこめかみや顎を伝って地面に落ちた。

後藤田コーチが名前を呼んでゆく。

南原さん、畑谷さん、瑞希、河合さん。稔も呼ばれている。

最後の一人になった。

後藤田コーチは周囲を見回し、誰かを探している。

こちらを向いたから②胸が高鳴る。

だが――。

呼ばれたのは二年生の先輩の名前だった。

③目の前が真っ暗になった。

「……以上、八名。メンバーに選ばれなかった者も、付添や応援で同行する事になるから、体調管理にはくれぐれも気をつけて」

後藤田コーチの声が高らかに響き、その日の練習は終わった。

歩はふらふらとよろめき、倒れ込むようにトイレの扉を押した。蛇口を捻り、洗面器に水を溜める。いつもは足を冷やすのに使う洗面器に、歩は顔をつけた。

「ぷはぁっ」

息を止め、限界まで我慢した後で顔を上げる。

苦しい。

顔から水滴を垂らしながら浅い呼吸を繰り返す。必死で酸素を吸う。

「うぅっ……」

嗚咽が止まらない。蛇口の水を勢い良く流しながら、声を殺して泣いた。

今回は本番ではない。まだ、次がある。一旦は、そう気持ちを切り替えていたのに、いざ、メンバーから漏れるとショックだった。

（蓮見恭子『欅を、君に。』光文社 による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「歩は遠ざかる河合さんの背中ばかり見ながら走っていた」とはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 歩が河合さんにぶつかってしまい、バランスを崩してしまったということ。

イ 歩が河合さんに追いつくことができないまま、距離をはなされてゴールしたこと。

ウ 歩が河合さんに必死で追いすがり、最後は並んで走るまでに距離を詰めたということ。

(2) ——線②「胸が高鳴る」とあるが、このときの歩の様子として最も適当なものを選びなさい。

ア 自分が最後の一人に選ばれないことを覚悟し、緊張しながらコーチの言葉を待っている。

イ コーチがこちらを向いたことで、自分が最後の一人に選ばれるのではないかと感じている。

ウ 周囲を見回しているコーチの姿を見て、自分がメンバーに選ばれるかどうか不安に思っている。

(3) ——線③「目の前が真っ暗になった」とあるが、この表現について正しく述べたものを選びなさい。

ア 時間の経過を、情景描写をもちいて表現している。

イ 歩が気持ちを切り替えたことを、隠喩で表現している。

ウ 強く気落ちする歩の心情を、印象的に表現している。